令和6年度中学生海外派遣事業

オレゴン訪問記

シャヘイラムバレー中学校のホールで

場所 ： アメリカ・オレゴン州

とき ： 8/1（木）～8/8（木）

朝来市連合国際交流協会

「姉妹都市交流の再開にあたって」

朝来市連合国際交流協会
会長 垣尾 幸博

アメリカ合衆国オレゴン州ニューバーグ市にあるシャヘイラムバレー中学校（旧スプリングブルック中学校）と朝来市立和田山中学校（旧和田山町立和田山中学校）の相互交流が1990年（平成2年）にスタートし、さらに学校間交流から姉妹都市交流に発展し、ニューバーグ市と朝来市（旧和田山町）との姉妹都市提携が2000年（平成12年）に結ばれました。

毎年生徒の相互交流や市民の草の根交流を推進してまいりましたが、近年は新型コロナウイルスの世界的な感染拡大により交流事業が中断。昨年度から状況が改善の方向に向かい、日米の関係者間で交流再開の準備を進めてきました。結果、今年度からは、交流相手校をシャヘイラムバレー中学校に一本化し、受入れ事業は朝来市内の小中学校との交流に拡大するとともに、派遣事業は市内の4中学校を対象とし、5名の生徒を派遣しました。

朝来市の藤岡勇市長そしてニューバーグ市のビル・ロザッカー市長のご理解のもと、幾多の困難な課題を克服してきた双方の関係者にはこの交流事業を再開させたいという強い意志があったものと思います。

これまでの日米両校のコーディネーターの方々そして両市の行政担当者の方、朝来市連合国際交流協会会員の皆様やホームステイなど多くのご協力をいただいております地域の皆様に心からの感謝を申し上げます。

世界の国々では依然として対立構図が渦巻く中、昭和、平成、令和と連綿と続いているこのプロジェクトを子どもたちの人材育成という確かな目標をしっかりと携えながら、関係者一同さらなる充実を図っていきたいと思います。

派遣スケジュール

日付	行程
8月1日（木）	● 朝来市出発 ● 伊丹空港 ● 成田国際空港 ● サンフランシスコ国際空港 ● ポートランド国際空港 ● シャヘイラムバレー中学校 到着 ● ホームステイ先へ
8月2日（金）	● 図書館見学（引率者は商工会議所訪問） ● シャヘイラム文化センター見学 ● 昼食（レストラン Jem100） ● ニューバーグ市内でショッピング ● 校内見学 ● 授業体験（美術）
8月3日（土） 8月4日（日）	● ホストファミリーとの一日を過ごす
8月5日（月）	● シーサイド （ショッピング、ビーチ散策、ビーチバレー、ビーチで昼食）
8月6日（火）	● ボンネビル･養魚場見学 ● ボンネビル･ダム見学 ● 昼食（レストラン：Bridgeside） ● マルトノマ滝見学、ギフトショップ ● シャヘイラムバレー中学校 友好の庭セレモニー（サバイバーツリー） ● さよならパーティー
8月7日（水）	● シャヘイラムバレー中学校　出発 ● ポートランド国際空港 ● サンフランシスコ国際空港 ● 成田国際空港 ● 伊丹空港 ● 朝来市到着

令和６年度アメリカ派遣者名簿

生徒

生徒名	学校	学年
岡村（おかむら） 根（こん）	和田山中学校	2年
藤次（ふじつぐ） 玲香（れいか）	和田山中学校	1年
田中（たなか） 創（そう）	梁瀬中学校	2年
鴨谷（かもたに） 桜（さくら）	朝来中学校	3年
村尾（むらお） 凪悠（なゆ）	生野中学校	2年

引率者

氏名	職名
小野 糸枝	団長（連合国際交流協会副会長）
ブライアン ブレンナン	通訳（枚田小学校 ALT）
高瀬 一弥	庶務（学校教育課 主事）

●1 日目 ～長旅～

連日同様の猛暑の中、5年ぶりのオレゴン訪問となる令和6年度アメリカ派遣団は、ジュピターホール横の並木道で出発式を行い、アメリカへの旅をスタートしました。市内各4中学校から選ばれた5名の生徒は、3名の引率者とともに、姉妹都市であるニューバーグ市のシャヘイラムバレー中学校と交流するため、さまざまな期待を胸に朝来市を出発しました。

ホストと対面

今回の旅は、伊丹空港から国内線で成田空港を経由し日本を出国しました。約10時間のフライトの後、サンフランシスコ国際空港に到着し入国審査を受け、国内線で最寄りのポートランド国際空港へ向かう合計約16時間の長旅となりました。サンフランシスコでは、派遣員それぞれが自力で入国審査を受けたり、売店で飲み物を購入したりして、英語による初めてのコミュニケーションとなりました。ポートランド国際空港では、シャヘイラムバレーの先生たちに出迎えてもらい、バスでニューバーグ市へ向かいました。シャヘイラムバレー中学校に到着後、ホストファミリーと対面したときには、はにかんだ笑顔もありましたが、長時間の移動に疲労の色も濃く、ホストの家へと急ぐこととなりました。

ホストでは、それぞれの家族から歓迎を受けたことで、緊張も解けリラックスできました。アメリカでの初めての食事となる夕食では、ステーキを食べるなど、本場のアメリカンフードに舌鼓を打ちました。今まで感じたことがないような長い1日を過ごしたので、この日はぐっすりと眠ることができました。

●2日目 ～学校での交流～

本格的な活動開始日となりました。毎朝の集合は中学校で、そこからバスに乗り活動場所に向かいます。この日は、生徒が図書館を見学している間、引率者は商工会議所にて、ニューバーグ市長らと面会し、小野団長が藤岡市長からの親書を代読後、朝来市からのお土産を手渡しました。5年ぶりの交流再開を喜び合い、お互いの文化について談笑し、大人の交流を深めました。

シャヘイラム文化センター前

その後、図書館見学を終えた生徒と合流し、シャヘイラム文化センターを訪れました。本センターは、1889年に地域のセントラルスクールとして建築され、やがて地震により閉鎖された校舎が改築されたもので、施設内には、絵画の展示・工作室・劇場・多目的室などがあり、市民が多種多様な文化を体験できる施設となっています。

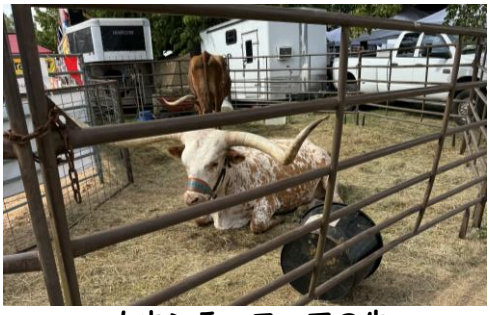
昼食はハンバーガーとアイスクリームの名店である「Jem100」で、初めて本場のハンバーガーを食べました。お肉もポテトもボリュームがあり、普通サイズでも日本のものより大きいため、生徒たちは商品のサイズを確認しあいながら注文していました。シャヘイラムバレーの生徒とも随分打ち解け、積極的にコミュニケーションを取ることができていました。

昼食に続いてニューバーグ市内でショッピングをした後、学校に戻り校舎内を見学しました。3班に分かれ、シャヘイラムバレーの生徒から各教室の紹介や普段の学校生活などを教わりました。日本とは大きく異なり、校舎のいたるところに生徒が描いた壁画や作品が飾られているなど、学校に入ればどこでも子どもたちの表現を感じることができました。この日の最後に、美術の体験授業を受け、今回の交流を記念したエコバッグを作成しました。美術の授業を担当してくださったスー先生が、5月に引率として来日した際、日本では買い物時にエコバッグを持っていき、レジ袋を削減する取り組みをしていることに感銘を受け、今回の作成に至りました。表面は自由にデザインし、裏面に全員分のサインをもらって、世界に1つのバッグを完成させました。8月は夏休みであり本格的な学校生活は体験できませんでしたが、アメリカの学校で多くのことを体験することができました。

美術の授業体験

●3・4日目 ～ホストファミリーとの休日～

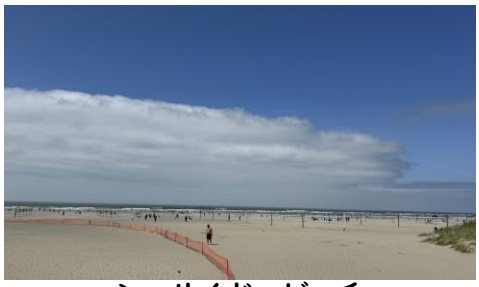
ホストファミリーと過ごす休日は、とても充実したものとなりました。プールやアミューズメントパークにいったり、メジャーリーグを観戦したりして、ホストファミリーと多くの時間を過ごしました。また、8月はカウンティフェアと呼ばれる祭りが各郡で開かれており、たくさんの文化に触れることができました。会場には、移動式遊園地や屋台、出店があるほか、子どもたちが乗馬のパフォーマンスをしたり、育てた家畜を披露したりしており、日々の活動を発表できる場所でもありました。


カウンティフェアの牛

ホストファミリーが与えてくれた2日間の経験はとても素晴らしいものであり、私たちも受け入れていただいている感謝を改めて伝えることができました。そしてこのオレゴンの地でいつまでも一緒に過ごしていたい気持ちになりました。

●5日目 ～シーサイド～

早朝にニューバーグ市を出発し、シーサイドへ向かいました。その名のとおり、広大な太平洋を望める観光地であり、広い砂浜の向こうに大きな海が広がっており、この上を9時間飛んだ先に日本があるのかと思うと、私たちの住む地球の雄大さを感じさせられました。今日までにヘーゼルナッツや麦畑など、はるか遠くまで広がる大地に何度も感動させられてきましたが、シーサイドに来てアメリカの大きさを改めて知ることとなりました。


シーサイド・ビーチ

午前中はショッピングをしてお店をめぐり、いつでもオレゴンを思い出せるようなお土

産を探しました。お昼に砂浜でホストが作ってくれたお弁当を食べたあと、ビーチバレーをしたり、海に入ったりしました。両校の生徒に、恥ずかしさや言葉の壁はなくなっており、積極的にコミュニケーションを取ることができていました。道中のバスの中でも、お互いの国で流行っているものを紹介しあうなど、運転してくださった校長先生がその声で疲れてしまうほど、車内は盛り上がっていました。

●6日目～マルトノマ滝・友好の庭セレモニー・さよならパーティー～

この日は、ボンネビル養魚場とダムを見学したあと、オレゴン随一の名所であるマルトノマ滝へ向かいました。山の上部から約190mの高さを流れ落ちる滝は、とても迫力があり、今回の旅で最高の自然を目にすることができました。

さよならパーティー

学校へ帰り生徒たちは和装に着替え、友好の庭セレモニーを行いました。この庭のリニューアルの披露を含めた式典で、庭を手掛けた栗栖芳一氏もお見えになり、双方の長年続いた交流の再開を祝しました。終了後は、さよならパーティーを開いていただき、最後のひと時を楽しみました。子どもたちの笑顔は絶えない一方、感極まる保護者の方もおられ、大人の方がどこか寂しさを感じているような気がしました。

●最終日　～別れ～

出発の便が早く、シャヘイラムバレー中学校に集合したのは午前3時でした。それにもかかわらず、この交流を共にした生徒やホストファミリーの皆さんが見送ってくれ、とてもうれしく思いました。私たちもこれからの交流で、より一層喜んでもらえるようなおもてなしをしたいと強く感じました。

派遣者全員がまたアメリカに来たいと思える体験をさせていただき、この交流を支えてくださった皆様とニューバーグ市、シャヘイラムバレー中学校の皆様に感謝いたします。

I had fun in Oregon

和田山中学校 2年 岡村 根

8月1日から8月8日まで、アメリカのオレゴン州へ国際交流に行きました。いつか海外に行ってみたいという僕の夢が叶い、とても嬉しかったです。初めての飛行機で不安もありましたが、無事に9時間のフライトでアメリカのサンフランシスコに着きました。機内では全然眠れませんでした。でも、映画をたくさん見ることができたので良かったです。機内食は美味しかったです。時差が16時間ありましたが、時差ボケもなく過ごすことができました。

飛行機の窓から

ホストファミリーと

ホストファミリーとの生活は、とても楽しくて、いろいろな遊びをすることができました。外にあるトランポリンをしたり、ＵＮＯやスマホゲーム、ワニワニパニック、レゴブロックをしたりしました。ＵＮＯのルールが日本と違ってなれるのに時間がかかりました。僕を快く受け入れてくれたMAXファミリーには感謝です。

食べ物は、すべて自分の口に合うものばかりでした。アメリカで食べるハンバーガーは日本より一回り大きくて、食べ応えがありました。肉汁がすごくてコーラとよく合いました。ささみのハンバーガーや魚のハンバーガーもありました。ステーキやピッツァなど、僕の好きなものばかりで、アメリカでの食べ物はすべて美味しかったです。

大きなハンバーガー

野球観戦

ホストファミリーと５月に受け入れをした校長先生のAndyが、メジャーリーグに連れて行ってくれたので、シアトルマリナーズの試合を見ることができました。試合の雰囲気は僕のイメージしていたメジャーリーグをはるかに超えていました。試合が始まってすぐに、ホームランが出て、ホームランボールを５つ隣りの席の人がとりました。その時の盛り上がりはすごかったです。試合中楽しい音が鳴っていて、周りはずっと盛り上がっていました。グラウンドから遠かったですがとても楽しい時間を過ごすことができました。

オレゴン州での行動は、いつもシャヘイラムバレーの中学生と一緒で、たくさんの英語を聞くことができました。そこで、積極的に会話をすることは大切だということを感じました。オレゴン州の観光で印象に残っていることは、海に行ったことと滝を見に行ったことです。シーサイドでは、ビーチバレーや相撲、お土産を買ったりしました。そこでみんなと一緒に遊び、仲良くなることができました。マルトノマ滝では、最後の観光だったので思い出に残るように写真をたくさん撮りました。みんなと滝が近くで見られるところまで行ったりして過ごしていると、まだ帰りたくないと思いました。

マルトノマ滝

アメリカに行ってよかったことは２つあります。一つ目は、１週間で英語を聞き取る能力がとても上がったことです。アメリカでの生活中はすべて英語で会話していたので、耳が英語に慣れていくのを感じることができました。２つ目は、感謝の言葉の大切さです。僕が出会ったアメリカの人々は何かしたらすぐにありがとう(Thank you)と言い、それに対してどういたしまして(You're welcome)と言ってくれてみんなが笑顔になりました。どこの国に行ってもありがとうという言葉は大切だと改めて感じることができました。英語をほとんど話すことのできない僕でも、積極的に話しかけていくことで、たくさんの友達ができました。この国際交流で日本とアメリカの文化の違いや英語の大切さを学び、自分の成長につながったと思います。またアメリカ・オレゴン州に行くことがあれば、みんなと会いたいです。

小野団長、高瀬さん、ブライアンさん、そしてこの交流に関わったすべての人に感謝します。貴重な経験をありがとうございました。

世界観が変わった国際交流

和田山中学校 １年 藤次玲香

８月の１日から８日に行ったアメリカ派遣で、私はとてもいい経験をさせて頂きました。前に、私の家で受け入れをしたローワンの家に行くのをとても楽しみにしていました。初めはほんとにアメリカに行けるのかと、とてもワクワクしていました。アメリカについてからは、全てが英語でとても圧倒されました。周りの景色も、全然日本と違ってとても大きかったです。

習字をプレゼント

アメリカについてからいちばんびっくりしたのは、道路の進む方向と帰る方向が違うのと、道路がとても広いということです。進む方向と帰る方向が違うから、助手席と運転席が反対なのも新鮮でした。シャヘイラムバレー中学校に着くと、ホームステイで受け入れたローワンが日本に来ていた時にプレゼントした浴衣の髪飾りをつけてくれていたので、嬉しかったです。また、初めて家族と出会えて感動しました。

ローワンの家に着いて、晩御飯を食べてからプレゼントを渡しました。プレゼントはお寿司のキャンドルやだるまのマグカップ・うさぎの雛人形です。とても喜んでくれたので、沢山悩んだ甲斐がありました。ローワンの家族からもオレゴンのコインケースやキーホルダー・服などをもらいました。アメリカのお家ではずっと靴を履くと思っていたけど、二階の時は脱いだり、一階でもやることが終わったらスリッパに履き替えていたりしてびっくりしました。また、いただきますとご馳走様がないのにもびっくりしました。

ホストファミリーと

私のオレゴンでのお気に入りの場所は海です。海の周りには、お店が沢山あってとてもカラフルで可愛かったです。お土産も沢山買えました。海は日本と全然違ってとても冷たく、砂浜がとても広くてビーチバレーや、ブランコがあり楽しめました。

休みの日には、ローワンたちと一緒にオレゴン動物園に行きました。日本とは違ってとても大きく、動物の距離がとても近いと感じました。次の日にはショッピングモールと叔母さんの家のバースデーパーティーに行きました。モールはとても大きくてお店の数も沢山ありました。叔母さんの家でのバースデーパーティーではローワンの親戚が沢山いて、日本の事を沢山聞かれました。日本が好きだと言っていたので、嬉しかったです。叔母さんの家にプールがあったのがびっくりしました。ローワンのいとこたちと入ったのがとてもいい思い出です。ホストファミリーはとても優しくて、ホストファミリーたちの好きな場所などに沢山連れて行ってもらいました。本当に感謝しきれません。アメリカでの両親が出来て嬉しいです。

また、私は日本の文化として習字と、笑い文字を伝えました。私が書いた習字はとても喜んでくれ、笑い文字はホストファミリーにも書いてもらって、とても良い思い出になりました。

いちばん楽しかったのはスーパーでのお買い物です。日本のサイズとは全然比べ物にならないぐらい大きく、お菓子を沢山買ってもらいました。アメリカのお菓子は全て甘いと思っていたけど、うさぎのクッキーはとても美味しかったです。

最後のパーティーの日は浴衣を着ました。学校の中のパーティーで家からいろんな料理を持ち寄るスタイルで、全部が美味しかったです。私たちは浴衣を着たのですが、ローワンは日本に来た時にプレゼントした浴衣を着てくれて、嬉しかったです。

アメリカ派遣に行って分かった事は、自分から話しかけたり、勇気や自信を持って行動したり、自分らしさを持って行動する事が大事だということです。この経験を活かして、これからは人見知りをやめて、初めて出会った子にも笑顔で自分から話しかけたいと思います。もっと英語を勉強して、たくさん英語を話せるようになれば、またアメリカに行った時にローワンや家族たちに会いたいです。そして、このような素敵な経験をさせて下さった、小野団長を始め朝来市の皆さん、本当にありがとうございました。

シーサイド・ビーチ

ニューバーグ市のスーパーで

アメリカでのホストファミリーについて

梁瀬中学校 2年 田中 創

アメリカ訪問を終えて、僕はまだアメリカのホストファミリーの家に居たかったです。

なぜなら凄くアメリカの人は、優しく話しやすかったです。ホストファミリーと会話するのは凄く楽しく笑いが止まらなかったです。

ホストファミリーの家では、猫を飼っていてとても可愛くとても癒されました。猫に引っかかれることもあったけれど、自分の家でも猫を飼っていて、散々引っかかれて慣れていたので大丈夫でした。

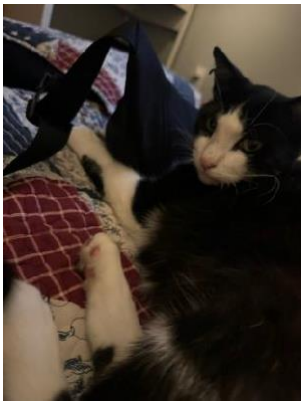
ホストファミリーに朝来市の魅力を紹介しました。

There are two charms of Asago city that I want to convey in America.
The first is the ruins of Takeda castle.
The scenery of the castle ruins when surrounded by the sea of clouds is called “castle in the sky” and is popular with many tourists.
The second is Iwatsu green onion.

この事を話すと理解してくれて、嬉しかったです。

それから、自己紹介もしました。（動物の名前は何ですか）と聞かれたので英語で話しました。 ホストファミリーは、日本語が少し話せていて凄いなと思いました。ホストファミリーと会話ができたのは翻訳アプリのおかげです。

ホストファミリーとまた出会える機会があれば、お会いしたいです。



ホスト宅のねこ

ホストファミリーとシャヘイラムバレー中学校の前で

自分の生き方をみつめて in Oregon

朝来中学校 3年 鴨谷 桜

さよならパーティーでみんなと

私たち5名はアメリカのオレゴン州で一週間、多くの体験をしました。初めは不安も多くありましたが、ホストファミリーに温かく迎え入れてもらい、不安はすぐに消え楽しむことが出来ました。 一週間のうちの5日間ほどは、現地の中学生と様々な場所に行きました。大きなハンバーガーを食べたり海に行ったり、大きな滝を見に行ったりと、とても充実した濃い一週間となりました。強く印象に残っているのは、中学校に行ってオリジナルのカバンを作ったことです。一人一人の個性がカバンに出ていて面白かったです。

アメリカと日本では異なる文化や異なる考え方がたくさんあります。実際にアメリカに行き、それを肌で感じられたことが私はとても嬉しかったです。日本人は顔が小さいと誉め言葉で使います。しかし外国では、それは良い意味に捉えられるとは限りません。このように異なる感じ方や文化があるため上手にコミュニケーションを取るのが難しかったです。また、アメリカの多くの人は、日本人には少し欠けている自尊心というのを強く持っていると感じました。自分に自信を持ち自分の意志もはっきりとしていて素敵な印象を受けました。

アメリカで生活し、同時に日本人のよさ、日本のよさも感じられました。互いを思いやる心や行儀のよさなどは日本人の良いところです。今回アメリカで学んできた多くのことを今後の生活に生かし、自分の将来にも繋げていきたいです。

大好きなホストファミリーと

中学生アメリカ派遣事業に参加して

生野中学校 ２年 村尾 凪悠

ホストファミリーと

私は大きなスーツケースを持って、手持ち用かばんをさげ、ドキドキした気持ちでバスに乗り込みました。初めてこの事業を聞いたときワクワクがとまりませんでした。小さいころから食べることが大好きで、将来はパティシエになって世界中をまわって、いろんな人とコミュニケーションをとってみたいと思っていました。

今回の派遣事業では、アメリカのお菓子について学び、アメリカでホームステイをして日本とどんな違いがあるのかを知りたいと思いアメリカに行きました。

ホームステイ先ではとても温かく迎え入れてもらいました。家の中では靴を履いたまま生活をしていて、最初は慣れませんでした。朝はパンとサラダ、ベーコンの他に味噌汁が出る日もありました。夕食は肉料理が多かったです。お寿司では生魚も食べていました。軽食にはフルーツやクラッカーを出してもらいました。その時に出されたオリーブがおいしかったです。帰るころには、話している内容がわかることも増えました。

４日目の夜、家の近くの電灯が爆発して停電しました。すぐにお母さんが氷や水を買いに行ってくれて素早く対応してくれました。ホームステイ先の家族がとてもやさしく接してくれたおかげで一週間とても楽しく過ごすことが出来ました。

ボンネビルダム

今回の事業ではいろんなところを訪問しましたが、私が一番心に残っているのはボンネビルダムです。迫力がありスケールの大きさに圧倒されました。アメリカは道や建物などすべてのスケールが大きかったです。それは食べ物も同じで、ハンバーガーはスモールのサイズなのに日本のビックサイズの大きさでとても驚きました。アメリカで食べたスイーツで一番おいしかったのは、シーサイドのお店で食べたジェラートです。濃厚でとてもおいしかったです。いろいろなお店でお菓子を買って食べたり、帰ってきて家族と食べたりしました。お菓子は全体的に甘いものが多いなと思いました。また、チュッパチャップスをなめると、甘い味と辛い味が混ざっているなど日本にはない味があることがわかりました。

あっという間の ８ 日間でとても貴重な体験をさせてもらいました。朝来市国際交流協会の方々、朝来市の皆さん、シャヘイラムバレー中学校の皆さん、ニューバーグ市の皆さん、団長をはじめ引率してくださった皆さん、一緒に行ったメンバー、たくさんの方々に感謝したいです。

私はアメリカに行って自分と違う国の人たちと話す楽しさを学びました。ブライアンがアメリカの子たちと楽しそうに話しているのを見て、私はもっと英語が喋りたいなと感じました。これからもっと英語を勉強してアメリカだけでなく言語の違う国へ行って楽しさや驚きなど気持ちを共有できるようになりたいです。

再開された国際交流

朝来市連合国際交流協会副会長 小野 糸枝

はじめに

私にとっては、20 年ぶりのオレゴン訪問となった。期待に胸を膨らませている中学生 5 名と共に、多くの方の見送りを受け朝来市を後にした。

今回交流事業に参加した中学生は、4 中学校から面接によって選出された子どもたちである。本来なら希望した子どもたち全員を連れて行ってあげたかったが、諸般の事情によりそれは叶わなかった。けれど、再開された国際交流を今後も継続させるという使命を負ったものだと、気合いを入れて取り組もうと思った。

国内線、国際線を乗り継いでポートランド空港に到着した子どもたちは、初めての飛行機の旅ということもあり、「眠れなかった」と言いながらも、元気にホストファミリーの待つ家に向かった。

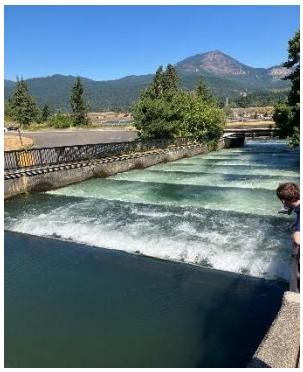
私は、シャヘイラムバレー中学校で国際交流の担当をしている Donna 先生のお宅でお世話になることになった。「自分の家だと思って過ごして」と言われ、滞在していた 6 日間、本当にリラックスして過ごすことができた。Donna さんの家ではご主人と息子さん、そして 2 匹の猫が私を迎えてくれた。とてもフレンドリーでホスピタリティにあふれた家族だった。滞在中、ご主人の家族を訪問したり、別の息子さんの家族が会いに来てくれたりといろいろな家族ともふれあうことができた。本当にみんな仲がよくて、家族を大切にしていることが伝わってきた。

雄大な自然

Donna さんの家は、学校から車で 30 分ほど離れた Woodburn という地域だった。周りはどこまでも続く農地が広がり、北海道を彷彿とさせる光景だった。小麦や牧草、ホップやハロウィン用のカボチャ、クリスマスツリーなどが栽培されていた。作業をしている人の姿はあまりなく大型機械と自動化された放水機がいつ見ても動いていた。また、山が近くに迫っていないので、本当に広い青空を毎日見ることができた。

ルイスアンドクラーク像の前で

アクティビティで出かけたオレゴンコーストは、暖かく水もそれほど冷たくないように思った。以前訪れた時は、風が冷たく海の水もびっくりするほど冷たく、日本海の夏の海とは全く違うことに驚いたが、今回は、子どもたちも海の中に入って遊んだりビーチバレーを楽しんだりすることができた。20 年間でオレゴンにも温暖化が押し寄せているような気がした。海岸のそばに、第３代大統領ジェファーソンの命を受けて探検をし、西海岸までたどり着いた、ルイスとクラークの像が建っていた。広大なアメリカ大陸を横断し、太平洋にたどり着いた探検隊のお陰で、今のオレゴンがあると思った。



ボンネビルダムの魚梯

もう一つ訪れたボンネビルダムは本当に迫力のあるダムだった。1 基目は 1937 年にコロンビア川とスネーク川の間に建設さ

れたが、さらに多くの電力を供給できるようコロンビア川に２基目の発電所が建設され、現在1,200メガワット、90万世帯の電力需要を満たしている。川をさかのぼる鮭などを保護するために、ダムの下流から上流のボンネビル湖まで魚梯が作られ、遡上を助けている。また、その様子をビジターセンターに作られた水中窓から見ることができる。個体数の監視をするため、毎日スタッフが魚梯を上る成魚の数を数え、記録されている。スケールの大きい自然を活かしそして自然を保護しているアメリカという国の懐の大きさを実感することができた。これらの施設は、U.S.ARMY により管理されていることにもびっくりした。これだけ大きなダムが何者かにより破壊されたら、とても大きなダメージを受けるからだとの説明を受け、危機管理のスケールも違うことが分かった。

ニューバーグ市は多くのワイナリーがあることでも有名である。約150のワイナリーがあると聞いた。その内の一つにDonnaさんが連れて行ってくれた。小高い丘の上にワイナリーはあり、ブドウ畑が広がっている。多くの人たちが野外で風景を楽しみながら、テイスティングを楽しんでいた。眼下に素晴らしい風景が広がり、ゆったりと食事をしていると、日頃の鬱憤が晴れるだろうなと思った。そこはワインだけでなく、オリーブオイル、ワインビネガーや香辛料の入った塩などが売られていて、その種類の多さに驚いた。

ワイナリーにて

強い絆

今回の交流で、一番感じたことはニューバーグ市と朝来市あるいはシャヘイラムバレー中学校と和田山中学校との絆の強さだった。２日目に市長訪問を行ったが、20 人近くの人たちが笑顔で私たちを迎えてくれた。朝来市長の手紙を読み上げ、プレゼントを渡すセレモニーが終わると、軽食も用意されていて、いろいろな方と話をすることができた。どの方も、朝来市や日本に対して友好的で、気持ちの良い時間を過ごすことができた。

また、滞在最後の日には、以前に和田山町から寄贈された「友好の庭」がリニューアルされたことをお披露目するセレモニーが催された。この庭は、学校の入り口横に設置されていて、そこだけが、和の装いだった。リニューアルにかかった費用は、保護者や企業からの募金で賄われたそうだ。この庭を設計した栗栖宝一さんも来場され、スピーチをお聞きすることができた。栗栖さんは、「世の中が便利になり、コンピュータやメディアからの情報があふれ、ゲームなどに没頭する子も多いが、ここに来たときは、少しでいいから足を止め、自然を見つめてほしい。自然から得られるものは、最先端の技術からは得られないものを私たちにもたらしてくれる」と話された。感慨深いスピーチだった。

友好の庭の蹲

庭の奥には、蹲（つくばい）が設置されていたが、そこに書かれた文字が「吾 唯 足 知」と水の落ちる部分を「口」として配置されていた。Donna さんに、同じ意味の英語があるかと聞くと、「Being content with what you have」だと教えてくれた。英語圏にも同じような考えがあるということがうれしかった。

その後のさよならセレモニーでは、保護者の方の持ち寄りで、本当においしい料理が用意されていた。私は Donna さんのご主人の Scott さんが焼いてくれたステーキがおいしくて、たくさんいただいた。日本の中学生は浴衣や甚平を着て交流を深めていた。

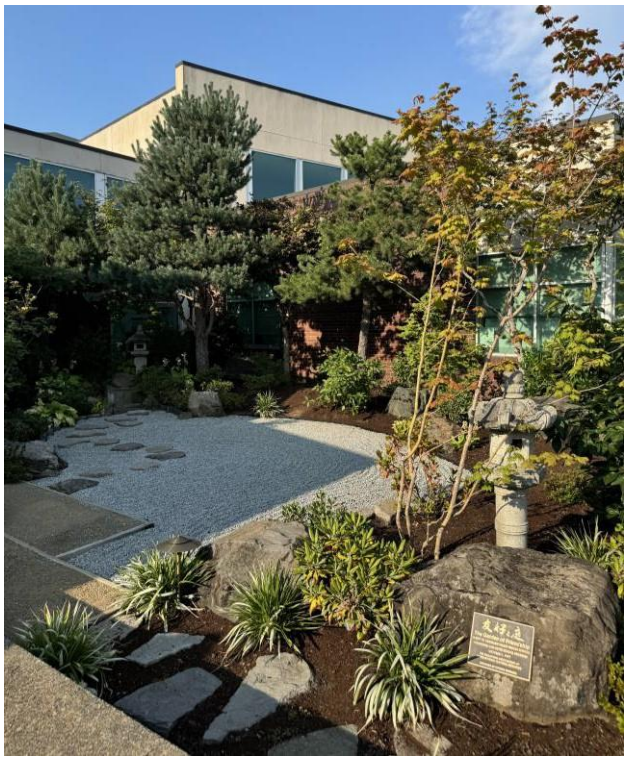
おわりに

はじめは緊張気味だった子どもたちも毎日、来日した中学生と行動を共にすることで、言葉の壁を越えて距離がかなり縮まったように思う。日本の子どもたちも、アメリカの子どもたちも本当にいい笑顔で記念写真に納まっている姿を見て、私に課せられた使命を果たすことができたのではないかと思った。

今回の交流は、新型コロナウイルスによる中断や様々な困難を乗り越えて実施までこぎつけることができた。この事業には朝来市をはじめ市内４つの交流協会の支援なくしては実現しなかった。また、和田山町が和田山中学校とともに続けてきた長年の交流も今回の交流の成功の根底にある。

多くの人たちの思いのもとに、将来を担う子どもたちが、世界とつながるきっかけとなる国際交流が、今後も続いていくことを願わずにはいられない。

「友好の庭」



1997 年に和田山国際文化交流協会から贈られた日本庭園「友好の庭」を最近リニューアルしました。シャヘイラムバレー中学校の玄関前に位置する庭園に正面部分を追加し、来場者が到着時に目につきやすい空間を復活させました。

ニューバーグ市民のボブ・ウッドラフ（Bob Woodruff）氏が再設計と建築を管理し、日本庭園設計の大家である栗栖宝一氏 の才能を結集したプロジェクトとなりました。

広島出身の栗栖氏は、自然の美しさと静寂さをデザインしています。私たちの友好のシンボルとして、シャヘイラムバレー中学校で彼の作品を発表できることを光栄に思います。

～シャヘイラムバレー中学校より～

朝来市とシャヘイラムバレー中学校の交流学校の振り返り

ALT ブレンナン ブライアン アンドリュー

令和６年８月１日から８日まで朝来市の中学生と一緒にアメリカの交流の旅をしました。５年ぶりにする交流でしたので知らないことや不安、心配がありました。しかし、何とかうまくいきました。

ボンネビル養魚場にて

若者で外国に行くときに、一番心配されることはその国の人に受け入れられるかどうかだと思います。近くに親友も家族もいないため、迷子になった気持ちになりやすいです。だからシャヘイラムバレーの人の優しさにすごく感動しました。先生だけではなく、生徒たちも毎日自分の夏休みの時間を使って、私たちの交流を楽しませてくれました。お互いの言語が話せない問題があるのに、朝来市の生徒と深く仲良くなってくれました。これで朝来市の生徒が外国の旅行に行っていたような感じではなく、ただの子どもとして新しい日常生活を暮らしていた感じになれたと思います。これは人生ですごく大切な経験だと思うので、これからシャヘイラムバレーの人がまた朝来市に来る時にできるだけ同じようにしてあげたいです。

この旅でたくさんの忘れられない思い出を作ったのですが、頭に強く残るのが一つあります。それは下にある写真の思い出です。オレゴン州の海に行った日に、ある生徒がおもちゃやさんでスコップを買って、大きい穴を掘りたかったようです。掘りながら、「ブライアン先生の全体が入られるぐらいの大きさに掘ろう！」と言って、一所懸命掘りました。掘った後に、私はもちろんその穴に入って、首までを砂で隠されました。その砂堀の遊びだけで皆がすごく喜んでいて、心がいっぱいでした。

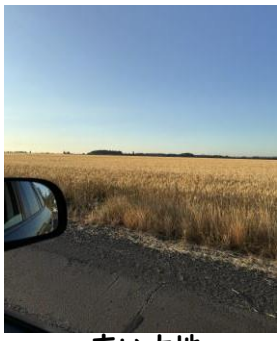
砂浜に埋められたぼく

私はこの旅に参加できたことに感謝しています。今まで中学校じゃなくて小学校の先生だったのに選ばれました。次回から参加できなくても、今回このプログラムの復活を手伝うことができたのがとても嬉しかったです。

過去の交流の足跡

学校教育課 主事 高瀬 一弥

５年ぶりに再開する運びとなったこの事業を担当し、長年の交流で築かれた絆を深く感じました。５月にシャヘイラムバレー中学校の訪問団を受け入れて日本と朝来市を知ってもらい、８月にオレゴンを訪れることでアメリカとニューバーグ市を知りました。私が中学生のころから海外都市との交流はありましたが、派遣と受入の経験はなく、私自身も初めての国際交流となりました。派遣団として、久々の再会となる今回の交流で緊張した場面が多くありましたが、笑顔でふれあう子どもたちや現地の方々、小野団長、ブライアン先生に助けられ、無事に終えることができました。ありがとうございました。


広い大地

今回の派遣・受入の準備をする中で、両市の長い交流の歴史を感じることが多くありましたが、実際にニューバーグ市を訪れ盛大な歓迎を受けたことで、過去の派遣員のみなさんがつないできた友情と絆を体感しました。シャヘイラムバレー中学校の校舎の一角には、これまでの交流の写真や記念品が飾られているコーナーがあり、校長先生から子どもたちの生活のすぐ近くに朝来市があることを教わり、とてもうれしく思いました。２日目には商工会議所でニューバーグ市長と面会後、市や商工会の職員の方とも言葉を交わし、本交流をよりよいものにしたいという思いを共有できました。

アメリカの家族

アメリカでの１週間は新体験ばかりで、時間がゆっくり流れているような気がしました。特に車窓から眺める景色が素晴らしく、移動中ずっと外を見ていても飽きないほど、壮大な自然が広がっていました。お世話になったホストファミリーのAndy校長の家は学校から30分ほど離れており、毎日が楽しいドライブでした。私が外の景色にいつも驚いていると、「私も日本に行ったとき、同じように外を見ていた。自然や道路標識が全く違うからね。」と言われ、同じ行動をとっていたことに笑い合いました。ホストファミリーは家族の一員のように接してくれ、アメリカにもう一つの家族ができたことをうれしく思います。

派遣団として一緒に過ごした生徒たちも、充実した交流になったのではないかと思います。うまくいかないことも多くあったはずですが、この経験をターニングポイントとし、今後の人生に大きく役立てていただきたいと思います。

現代の社会は、働き方改革やコンプライアンスに起因して、日々の生活の中で配慮を必要とする場面が増えてきていると感じます。国際交流は言葉の壁や文化の違いから、準備に携わる人やホストとして受け入れる人、実際に派遣される人すべてが多くのエネルギーを要します。特に今回は新型コロナウイルスによる中止から５年ぶりの再開であったことから、多くの方のご協力をいただきました。継続した実施には時折困難があり、大変な事業ではあると思いますが、今後もこの交流が続いていくことを願っています。そうして実現した交流の恩恵を受けた派遣団の私たちが、少しでも多くの方にこの経験を還元できるよう、毎日を過ごしていきたいです。

商工会議所でニューバーグ市長と

シャヘイラムバレー中学校内の朝来市ブース

学校見学

ニューバーグ市内散策

ハンバーガーショップ・Jem100 にて

オレゴン州旗

オレゴン州の位置